

I. 経済学部として行った組織的活動

1 地域連携・生涯学習センター（旧 生涯学習教育研究センター）

「地域連携・生涯学習センター」は生涯学習に関する調査研究、や生涯学習機会の提供などを目的として 1998 年度に学内共同教育研究施設として設置されました。また、高等教育機関コンソーシアムなど産官学の連携のもと、経済学部の教員も同センターが主催するシンポジウム、セミナー、講演会、公開講座等の事業に参画しています。

- ・ 2010 年 6 月 12 日 地域生涯学習事業開発プロジェクト 第 1 回研究会 足立基浩
- ・ 2010 年 8 月 7 日 土曜講座 第 5 回「一篇の詩が国を変える？ —文学は何をするのか—」 講師：亀山幸枝
- ・ 2010 年 10 月 2 日 土曜講座 第 7 回『「共助」からみる福祉のまちづくり —つながりのある社会をとりもどす—』 講師：金川めぐみ
- ・ 2011 年 2 月 5 日 土曜講座 第 11 回「地方都市圏の交通とまちづくり—持続可能な社会をめざして—」 講師：辻本勝久
- ・ 2011 年 3 月 5 日 土曜講座 第 12 回「環境・自然エネルギー革命：環境と防災を統合したまちづくり」 講師：中村太和

2 南紀熊野サテライト（旧 紀南サテライト）

本年 7 月 1 日付けで、紀南サテライトは南紀熊野サテライトに名称変更された。また、本学の機構改革に伴い、地域創造支援機構地域連携・生涯学習センターの所管となった。サテライト長は引き続き経済学部大泉英次である。

南紀熊野サテライトは、本学の研究・教育機能を活用して、和歌山県南部の地域づくりに貢献する、大学の地域ステーションをめざしている。

南紀熊野サテライトが取り組む事業は、①地域住民の多様な教育ニーズに対応した特色ある高等教育の実施、②地域研究の推進及び地域の課題をふまえた生涯学習の機会提供、③地域自治体、企業等と連携した地域活性化に資する事業の実施、④高校を含めた地域に対する大学情報の発信である。

経済学部は、南紀熊野サテライトが行う高等教育事業、地域研究事業、地域連携・生涯学習事業において重要な役割を果たしている。

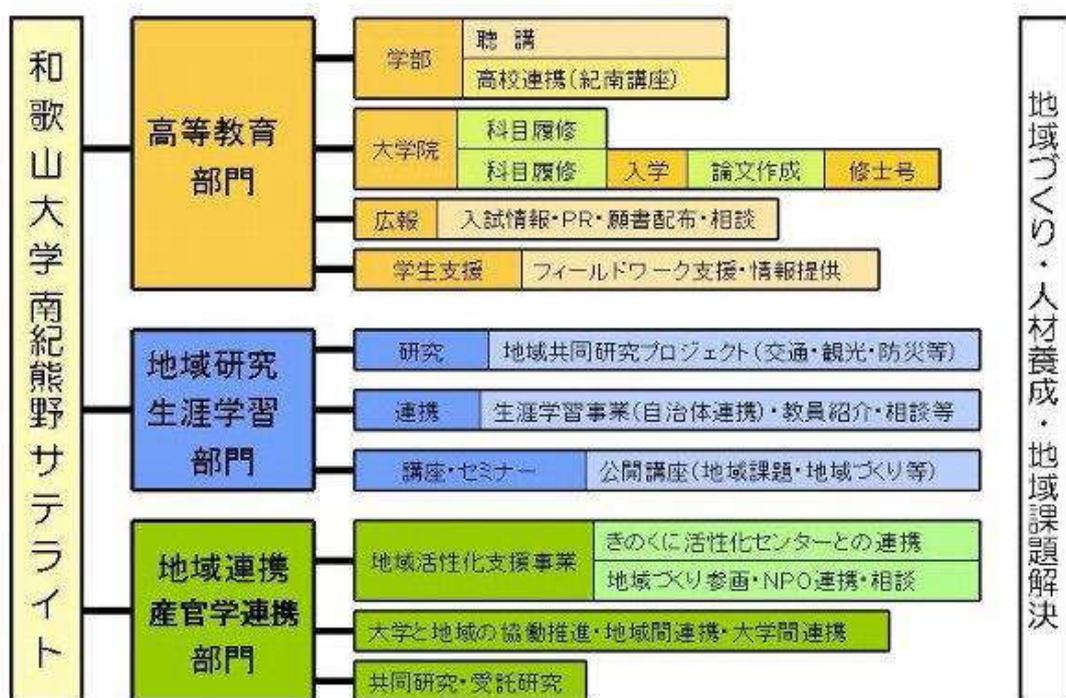


図 1 南紀熊野サテライト構成図

2.1 高等教育事業

本年度の南紀熊野サテライト大学院授業科目のうち、経済学部教員が担当している科目は次の通りである。

前期：「世界と日本のマクロ経済」荒井信幸、足立基浩、大泉英次

後期：「地元学特論」（岸和田サテライトと共同開講）河音琢郎、鈴木裕範

本年度の南紀熊野サテライト大学院の大学院生研究指導は、足立基浩、大西敏夫が担当している。

2.2 地域研究事業

本学が行う本年度の「地域貢献機能の充実を図るためのプロジェクト事業」のうち、紀南地域を対象とする研究プロジェクトにおいて、辻本勝久ほかの経済学部教員が研究代表者、研究分担者として研究を行っている。

2.3 地域連携・生涯学習事業

南紀熊野サテライトは本年が設立5周年となるので、その記念事業を12月23日に開催する予定である。そこでは橋本卓爾元経済学部教授（現本学名誉教授）を主査とする経済学部教員チームも研究成果の発表を行う予定である。

3 岸和田サテライト

岸和田サテライトでは、これまで①学校型事業、②非学校型事業に大別した形で、岸和田市をはじめとする泉州地域のニーズに対応した事業展開を行ってきた。2008年度においては、岸和田市との地域連携協定5年目の節を迎えたことを踏まえ、これまでの事業展開と今後の事業展開について、和歌山大学・岸和田市地域連携戦略チームを作業部会として設置し、点検・評価と今後の事業展開のあり方についての検討を行った。以下、2010年度の事業展開について、経済学部との関わりを中心に記す。

3.1 学校型事業

(1) 大学院授業

市民ニーズを取り入れながら「大人の学びをプロデュースする」という目的の下、2006年度より経済学研究科及び教育学研究科において科目等履修生を対象とした大学院授業を実施してきた。経済学研究科では、06年度5科目、07・08年度6科目を開設し、サテライト事業の中核を担ってきた。09年度においては、更なる拡充をはかり8科目を開設するとともに、租税法を研究科目とする社会人を対象とした研究指導を岸和田サテライトにて実施するなど、サテライト授業の拡充・体系化に努めている。また、社会人受講生のようぼうを反映する形で、フィールドワークを取り入れた授業展開など、工夫を凝らしているところである。

2010年度の経済学研究科開講科目と担当者、受講者数（()は正規生を内数で示す）は以下の通りである。

[前期開設科目]

- ・ 租税法総論 畦地文晴 23 (16)
- ・ 現代家族生活と民法 吉田雅章 32 (19)
- ・ 都市近郊農業論 大西敏夫 27 (19)
- ・ 環境・自然エネルギー革命 中村太和 14 (8)

[後期開設科目]

- ・ 資産課税論 森本由美子（非常勤講師） 25 (19)
- ・ 現代経営論 24 (14)
- ・ 地元学特論 河音琢郎 20 (18)
- ・ *紀南サテライトとの合同授業
- ・ 地方都市の地域づくり 足立基浩・大泉英次 32 (23)

(2) 学部開放科目

より幅広い市民の知的要求を受け入れる場として、08年度から新たに学部授業を開講している（聴講生形式）。2010年度は、前期1科目（観光学部担当）、後期1科目を開講（システム工学部担当）する計画である。

3.2 非学校型事業

岸和田市を中心に、市民の地域研究・生涯学習活動を共同した形で、地域学習活動の推進を図っている。本事業は、和歌山大学生涯学習教育研究センターが核となって積極的に展開しているが、経済学部の教員も、講師、パネリスト等として参画している。

3.3 わだい浪切サロン

岸和田サテライトを、泉州地域住民と和歌山大学との交流・連携の身近な場とするため、2008年度より、毎月第3水曜日という定時定点方式で年10回「わだい浪切サロン」を開設してきた。2010年度も同様の形式で開催している。和太教員が様々なテーマで話題を提供する形で展開、常時20～30名程度の参加を得て好評を博している。

[2010年度わだい浪切サロンで話題提供を行った経済学部教員（予定を含む）]

- ・ 金川めぐみ「公助・共助・自助で高齢者福祉のまちづくり ～和歌山県内の介護予防サロンの実践から～」2010年12月15日（予定）
- ・ 河音琢郎「岸和田のこれからのまちづくりを考える」2011年3月16日（予定）

3.4 岸和田サテライト友の会の活動

2007年12月に岸和田サテライト大学院授業履修生（OBおよび受講中の社会人学生）をメンバーとした「友の会」が発足し、会員60名を超え、総会や講演会活動など活発な活動を行っている。2010年度の実施事業は下記の通りである。

- ・ 岸和田サテライト 2010年度後期開講科目説明会・友の会夏期講演会：2010年7月10日
石田文雄（本学修了生）「地域産業再生の理論と実践に関する研究」
橋本卓爾（本学名誉教授）「石田報告に対するコメント」
足立基浩「シャッター通り再生計画——学生たちの挑戦」
- ・ 岸和田サテライト 2011年度開講科目説明会・友の会冬期講演会：2011年2月開催（予定）

経済学部においては、サテライトの科目等履修生から本課程に進み、修士課程を修了した方の研究報告会や経済学部教員による講演会企画、さらには、サテライト授業や本課程募集の広報など、多面的な形で友の会との協力関係を構築してきており、こうした関係づくりは今後さらに重要性を増すものと考えられる。

3.5 高大連携事業の推進

2008年度に岸和田市立産業高校から経済学部に対して高大連携の申し入れがあり、2010年度においても、高校からの大学訪問、高校への出前授業など、引き続きその具体化に取り組んでいるところである。なお、09年度に実施した事業は以下の通りである。

- ・ 岸和田産業高校生の和太経済学部訪問（ゼミナール見学と懇談会）2009年7月15日
対応者：河音琢郎、今田秀作、高校生6名、高校教員3名が参加
- ・ 岸和田産業高校生向け出前授業：2009年11月（開催予定）

3.6 紀南サテライトとの連携の強化

2009年度においては、紀南サテライトとの共催での科目を開講したほか、両事務室スタッフ間での情報交換、交流の場を定期的に設け、連携強化を図っているところである。

4 産学連携・研究支援センター（旧 地域共同研究センター）

産学連携・研究支援センター(旧地域共同研究センター)は地域貢献機能の拡充を図るために、独創的研究支援プロジェクトの一環として、下記のプロジェクト事業の公募を以下日程で行い、経済学部からは3件の応募があり、一件が採択されました。地域貢献枠での応募総数は16件、採択数は5件でした。

公募対象事業名：「地域貢献機能の充実を図るためのプロジェクト事業」

公募期間：2010年4月8日（木）～同年5月22日（木）15:00

代表者 辻本勝久

課題名 「民産官学連携による地域公共交通の効率的構築・維持に向けた実践的活動と地域貢献機能の充実」

期間 2010年～2011年度

配分額 5,836千円（内2010年度配分額3,325千円）

5 国際教育研究センター

「国際教育研究センター（IER センター）」は、海外の教育研究機関との国際交流、受け入れ留学生の教育と生活支援、派遣留学生の教育、国際交流教育、また国際共同研究を柱として、2004年に発足しました。センターは「国際教育セクション」、「国際研究セクション」、「支援セクション」の三つのセクションと事務組織とが、互いに連携しあう形で成っています。経済学部とのかかわりでは、同センターが主催する外国人留学生向けの授業 Japan Study に対し、授業を行うなどの参加をしています。

- ・ 2010年5月28日 Japan Study 足立基浩
- ・ 2010年6月4日 Japan Study 王 妙発

6 紀州経済史文化史研究所

紀州経済史文化史研究所は、「紀州地域の経済、文化の史的研究及び自然に関する基礎的研究並びにそれらに関する資料の収集及び公開を行い、「知」の提供を通じて地域社会の発展に寄与すること」を目的とした施設です。本研究所は、和歌山大学の創設まもない1951年に設立され、すでに50年以上の歴史を刻んでいます。この間、紀州関係の史的研究や資料収集等の活動を行い、全国的にも知られた研究施設として事業を進めてきました。

こうした活動の蓄積が認められ、2007年2月には博物館相当施設に指定されました。主な事業は、紀州地域の史的研究や資料収集、地域との共同研究、史料保存及び展示の開催、史料等の閲覧サービス、研究紀要、フィールドミュージアム叢書の刊行、研究会・シンポジウムの開催などです。

本研究所は、図書館棟3階にあり、展示室、貴重書庫などを備えています。大学博物館としての機能も充実させ、学内の学生・研究者に対する教育・研究支援はもちろんのこと、県内外の博物館・研究施設や研究者との交流・連携をはかり、地域の研究情報センターとして地域史研究の核となる役割も担っています。最近では、大学に閉じこもることなく、さまざまな地域へ出かけ、展示やシンポジウムの開催なども積極的に行い、地域貢献に寄与しています。

2009年度11月より2010年度にかけて紀州経済史文化史研究所が主催している事業で、経済学部教員が関わっているのは、下記の取り組みである。

- ・ シンポジウム「ふるさと教育副読本『わかやま発見』を読もう」
日時：2009年11月3日（火）
担当内容：挨拶（上村雅洋）
- ・ 特別展「紀伊半島からカリフォルニアへの移民—サンピードロの日本人村—」
日時：2009年11月16日（月）～12月18日（金）
担当内容：展示物の陳列、監視、図録の編集（上村）
- ・ シンポジウム「和歌山から世界への移民—先人の歴史を学び、新たな国際交流へ」
フォルテワジマでの写真パネル・トランクなどの出張展示
日時：2009年11月28日（土）
担当内容：資料配布、監視（上村）
- ・ 博物館資料実習企画展（新入生歓迎企画第1弾）
日時：2010年4月5日（月）～21日（水）
担当内容：監視（上村）
- ・ 常設展「和歌山の教育史—近世から近代まで—」
日時：2010年4月5日（月）～5月20日（木）
担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成（上村、長廣利崇）
- ・ 企画展「紀州研所蔵の和歌の浦史料」（新入生歓迎企画第2弾）
日時：2010年4月26日（月）～5月20日（木）

担当内容：監視（上村）

- ・ 和歌祭セミナー
日時：2010年4月26日（月）
担当内容：挨拶（上村）
- ・ DVD「紀ノ川河口デルタと和歌の浦～和歌子の和歌の浦案内」作成（2010年5月25日発行）
担当内容：企画・アドバイス（上村）
- ・ 常設展「和歌山の教育史―近世から近代まで―」
日時：2010年6月1日（月）～9月30日（木）
担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成（上村、長廣）
- ・ 企画展「虹の架け橋―和歌山からブラジルへの移住者たち―」
日時：2010年10月6日（水）～27日（水）
担当内容：監視（上村）
- ・ 特別展「西岡虎之助―民衆史学の出発―」
日時：2010年11月15日（月）～12月17日（金）
担当内容：監視（上村）

7 きのくに活性化センター

きのくに活性化センターは、和歌山大学と地域が連携して紀南地域の活性化を図っていくことを目的に、2002年4月、和歌山大学経済学部と紀南地域の自治体、経済界などが参画して設立されたもので、毎年度委託事業のほか独自事業、共同企画などを行なっています。

2010年は、3件の事業を受託したほか独自事業1件、事業協力1件を実施しました。そのうち、経済学部教員が関係する事業は、つぎのとおりです。

7.1 串本町の資源調査とマップの作成

串本町商工会からの委託事業。串本町の市街地活性化と新観光モデルの作成を目的に和歌山大学大学院・学生による資源調査（タウンウォッチング）を実施し、「町なか歩きマップ」を作成、新しい観光モデルコースを提示した。

教員：鈴木裕範

7.2 椿地区住みよいふるさとづくり研究会ふるさとづくり計画策定にかかるアドバイザー業務委託（農山漁村地域力発掘支援モデル事業）

農山漁村地域力発掘支援モデル事業により、白浜町椿地区住みよいふるさとづくり研究会が主体となって策定する「ふるさとづくり計画」策定において、より住民参画型で実践型の計画を実現するためにアドバイザーを派遣した。

教員：鈴木裕範

7.3 廃校リストの作成並びに活用策の提言

紀南地方を中心に和歌山県に存在する休廃校舎を地域づくりの拠点として活用するため和歌山大学生らの手で最新データを収集した。調査結果は、リスト化にまとめ今後廃校の活用検討に活用する。

教員：中村太和

熊野地域文化検定実施の協力

田辺商工会議所が、2009年に作成した「熊野地域文化検定」に、きのくに活性化センターから編集委員・執筆者として参加したスタッフが、検定の実施にあたり問題等の作成に協力をした。

教員：鈴木裕範

8 和歌山地域経済研究機構

和歌山地域経済研究機構は、経済学部、観光学部、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所と共に研究・政策提言活動を行っている。2010年度はシンポジウムを開催した。昨年度の4つの研究会「中心市街地再生研究会」「消費動向研究会」「市場（いちば）活性化研究会」「おもてなし研究会」の研究成果を合同で発表し、和歌山市の地域活性化に向けた、産・官・学・市民が連携しての具体的な取り組みの課題を提言した。また、研究会では昨年度から引き続くテーマとして「和歌山市中心市街地再生に関する研究」、新規テーマとして「ぶらくり丁の活性化・再生に関する研究」についての2つの研究会が活動している。

2010年度の本学での役員、研究メンバー、刊行物は次のとおりである。また、Webサイトの運営、メーリングリストサービス等を提供し、事務局業務についても貢献している。

8.1 役員

理事長：森口佳樹

理事：大泉英次、鈴木裕範

8.2 シンポジウム「地域活性化への提言－商業・観光・まちづくり－

～和歌山市の賑わいを目指して～

2010年6月15日

理事長挨拶：森口佳樹、コーディネータ：大泉英次、発表者：足立基浩

8.3 研究会

【和歌山市中心市街地再生研究会】

和歌山市中心市街地散策マップを作成。長崎さるく博覧会（2006年、355万人の観光客を誘

致)のようなマップを利用するためのしかけづくりについても発展させ、交流人口の増加につなげ、中心市街地再生に結びつけることを検討する。

代表：足立基浩

研究員：大泉英次

【ぶらくり丁活性化・再生研究会】

中心商業地域（ぶらくり丁）の再生につながる活性化策の研究及びその実現を目指す取り組みを実施する。基礎的調査として、消費者や一般顧客の動向調査（来街者調査・通行量調査）を実施したうえで、最も重要なフェーズとして、商店街関係者や当事者の個店経営に関する実情及び実態把握と今後の“あり方”を“本音”で聞き出すことを計画している。

研究員：大泉英次、辻本勝久、吉村典久、柳到亨

8.4 刊行物

機関誌： 地域経済 No.14 2010年9月発行

研究成果：

- | | | |
|-------|-------------------------------|---------|
| No.18 | 和歌山市民・近隣地域住民の消費動向と和歌山市小売商業の課題 | 2010年3月 |
| No.19 | 和歌山市における市場（いちば）活性化についての研究 | 2010年3月 |
| No.20 | 観光客の受け入れに対する和歌山県民の意識調査 | 2010年3月 |

9 地域マネジメントプログラム

経済学研究科では、2007年度より、和歌山市及び近隣の自治体の公務員並びに地域活動に携わっている社会人を対象に「地域マネジメントプログラム」を開講してきた。この大学院授業の開講によって、大学院の定員充足を図るとともに、地方公務員等のスキルアップを支援し、地域の再生・活性化に寄与することを目指している。

2009年度からは、「働きながら学ぶ」社会人がより受講しやすいよう配慮する意味で、和歌山大学まちかどサテライトキャンパスを主たる開講場所として実施している。

2010年度の開講科目は以下の通りとなっている。

[前期開講科目]

- ・ パブリックマネジメント論特殊問題 宮坂典男（客員教授）
- ・ 行政法特殊問題 三吉修

[後期開講科目]

- ・ 雇用関係法特殊問題 木内隆司
- ・ 社会政策特殊問題 乗杉澄夫
- ・ 財政学特殊問題 河音琢郎

なお、履修者数は下記の通りとなっている（後期開講科目は現段階の数値、()は正規生を内

数で示す)。

- ・ パブリックマネジメント論特殊問題 5 (4)
- ・ 行政法特殊問題 7 (5)
- ・ 雇用関係法特殊問題 6 (5)
- ・ 社会政策特殊問題 8 (7)
- ・ 財政学特殊問題 10 (9)

10 柑芦会

経済学部同窓会は、和歌山大学経済学部の前身である和歌山商業高等学校の第1回卒業式にあたり1926年3月に結成され、その後1929年に当時の岡本校長によって「柑芦会」と命名された。

柑芦会は、会員相互の親睦を図り、かつ、母校と会員との関係を緊密にし、その隆昌と発展を助け、あわせて社会文化の進歩向上に寄与することを目的としている（会則第2条：1968年制定）が、大阪支部では、近年「人生と仕事の幅を広げる！」をモットーに会員及び現役和大学生に向けて数コースの「人生塾」を開催している。

2004年9月からは、和歌山大学の教員を講師とする「研究わくわく人生塾」を新設した。

経済学部の教員は、ほぼ2ヶ月に1回大阪支部会館に出向き、20名程度の会員等に、「研究の楽しさ」や「現在の研究テーマ」等について、講義を行っている。

10.1 研究わくわく人生塾講師

- ・ 大橋迪男 2009年11月30日
「地球温暖化問題の経済学」一天野明弘著「輩出取引」中公新書2009年刊を読んで」
- ・ 行待三輪 2010年2月17日
「日本における国際会計基準採用の影響 ―棚卸資産低価法適用を中心として―」
- ・ 岡田真理子 2010年3月16日
「日本の雇用慣行の分析 ―能力主義管理の視点から」
- ・ マグレビ ナビル 2010年3月10日
「イスラム金融の基礎・現状」
- ・ 大泉英次 2010年7月14日
「英国のパブリック・フットパスとコモンズ」
- ・ 柳 到亨 2010年9月15日
「東アジアにおける商人精神に関する比較研究」
- ・ 足立基浩 2010年11月25日
「シャッター通り再生計画」関西のビジネス大会で優勝したゼミ生と取り組み

11 地域連携オフィス

地域連携オフィスでは、以下の3点の活動目的を確認し、それに従った活動を展開してきました。

- ① 経済学部の組織および教員個人における地域社会への貢献活動の実態をとりまとめ、学内外への情報発信をはかる。
- ② 地域社会の様々なニーズに応えるための学部の窓口となる。
- ③ 他学部、各種のセンターをはじめとした学内の諸組織との情報交流を進め、地域連携のネットワークをつくっていく。

11.1 社会・地域連携活動のとりまとめと情報発信

昨年度の『社会・地域貢献活動一覧』冊子をもとに、学内諸組織での経済学部教員の活動、経済学部のOB・OG組織である柑芦会、きのくに活性化センターなどの学外組織との連携活動など、社会・地域貢献活動の実態把握につとめました。さらに、個々の教員の活動についても、ゼミナール・講義等での学生、大学院生とのフィールドワークなども包括する形で情報収集につとめました。

情報発信の面では、昨年度の冊子刊行以降の取組みについて、本冊子の編集・刊行を行いました。また、本冊子のうち、組織的活動の概要については、広く学内外に情報発信しています。フィールドワークについては、地域連携オフィス委員の活動を中心に情報発信することとしました。

11.2 地域社会のニーズに応える窓口

地域連携オフィスが地域社会のニーズと経済学部教員のシーズとを円滑につなぐ機能を果たすため、オフィスの位置づけと機能を図1のように整理しました。

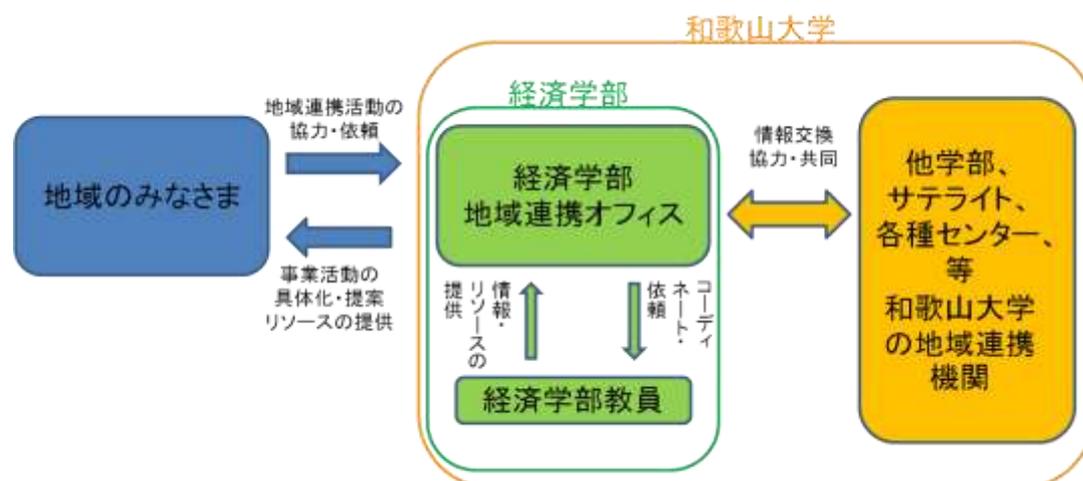


図2 地域連携オフィスの窓口機能に関するイメージ

こうした整理に基づいて、地域連携オフィスに寄せられた各種依頼のコーディネートにとりくみました。また、経済学部の Web サイト内に地域連携オフィスのページを作成し、学外への情報発信と窓口機能の整備・充実をはかりました。

11.3 学内諸機関との情報交流とネットワークづくり

2010 年 7 月に和歌山大学は、地域社会・産業界との連携を進めていくための組織改革として、「地域創造支援機構」を創設しました。本機構には、産学連携を行う「産学連携・研究支援センター」（旧・地域共同研究センター）と、地域連携・生涯学習事業を行う「地域連携・生涯学習センター」（旧・生涯学習教育研究センター）が設置されています。そして地域連携・生涯学習センターには、附属機関として 3 サテライト（南紀熊野サテライト・岸和田サテライト・和歌山大学まちなかサテライト）と防災研究教育センターが設置されています。

全学の新しい体制のもとで、地域連携オフィスは、今後とも紀南熊野・岸和田サテライトをはじめ学内の地域連携機関との日常的な情報交流の円滑化につとめてまいります。

11.4 地域連携オフィス委員会の運営

2010 年度の活動(委員会を計 3 回開催)を引き継ぎ、地域連携オフィスの組織活動と運営方針を議論する機関として、地域連携オフィス委員会を、下記の 7 名のメンバー構成で、計 3 回（2010 年 11 月時点）開催してきました。

地域連携オフィス 2010 年度メンバー一覧

大泉 英次（室長）
河音 琢郎
足立 基浩
鈴木 裕範
岡橋 充明
山本 敦子
久保 愛子